
ハッピー・スノー

Mico

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハッピー・スノー

【Nコード】

N5435D

【作者名】

M i c o

【あらすじ】

隆史は入院しているおばあちゃんが次の日も、また次の日もにつきり笑ってくれるものだと思っていた…

ばあちゃんが死んだ。

昨日お見舞いに行った時は、まだピンピンしていて、

「隆史、誕生日プレゼントは何がいいかい？」

って、来週の日曜日の僕の誕生日をちゃんと覚えててくれた。

「うーん…じゃあ、明日までに考えとくよ！」

「そうか…明日かい…」

少し寂しそうな顔をしたばあちゃんに、小学生の僕は気づきもなかった。

次の日、給食を食べていると先生が僕の所に来た。

「隆史くん…さっきお母さんから電話があつてね、おばあちゃんが亡く…」

僕は大好きなカレーとフルーツポンチを残して、勢いよく立ち上がり、教室を走って出ていった。

後ろの方で先生が僕の名前を呼んでいた。

先生は嘘ついてるんだ！

ばあちゃんが死ぬ訳がないんだ！

病院の3階の部屋に行けば、ばあちゃんは僕を見てにっこり笑うんだ！

半分言い聞かせる様に、僕は頭の中で言った。

病院の階段を2段飛ばしで駆け上がって、病室に駆け込んだ。

母ちゃんがばあちゃんの横でぼーっと座っていた。

「ばあちゃん！」

ベッドでぐっすり寝てるばあちゃんを起こそうと、びっくりするくらい大きな声で呼んだ。

すると座っていた母ちゃんは

「隆史…ばあちゃんね…死んだんだよ…」

と言って、僕を強く抱きしめてボロボロと涙を流した。

母ちゃんは嘘をつかない人だから本当に死んだんだって分かった。

「…うん。」

僕は”ばあちゃんの死”を理解したけど、悲しいとか思わなかったし、母ちゃんみたいに泣けなかった。

だって、ばあちゃんを見ると、ただぐっすり寝てる様にしか見えなくて、やっぱり死んでなんかないじゃん。って思った。

母ちゃんが泣き止んで、トイレに行った時、寝ているばあちゃんに話しかけてみた。

「ばあちゃん、今年のプレゼントは雪がいいな。
まだ今年になって雪見てないしさ…」

家には木の箱に入ってたばあちゃんがいた。

目をつぶって、ばあちゃんが気に入ってた赤い口紅をちよっとつけて、にっこり笑ったばあちゃんが…。

僕は、ばあちゃんが家に帰って来てから

「おはよう」とか

「行ってきます」とか

「ただいま」とか

「お休み」とか

毎日ばあちゃんに話しかけた。

でもばあちゃんは目をつぶってにつこりと笑ったままだった。

たまに学校であつた面白い話もするけど、ばあちゃんはぴくりとも動かなかった。

今日も最後に「お休み」って言って寝たら、夢を見た。

赤い口紅をちよつとつけたばあちゃんが僕を起こしに来て

「隆史、おはようさん。

今日は隆史の誕生日だろう？おめでとつ。」

つて僕の右手を握った。

「ばあちゃん、ありがとう。

あ！プレゼント何っ？」

つて僕が聞くと

「うふふふふ」

つて笑うだけで、僕がしつこく聞いてもやっぱり

「うふふ」

って言うだけで、だんだん僕から離れて行っただ。

「え…ばあちゃん？

…ばあちゃん！！」

ガバツと起き上がって、周りをキョロキョロしたけど、ばあちゃんの姿はなかった。

「夢か…」

そう思っただまた寝ようとしたら、何故かカーテンが少し開いていた。

不思議に思っ、窓に近づくと外は雪だった。

そっだ！今日は僕の10才の誕生日だ！

さっきのは夢じゃないんだ！

雪はばあちゃんからの誕生日プレゼントだ！

僕は窓を開けて

「ばあちゃん、ありがとーう！！」

と叫んだ。

「うふふふ」

つてばあちゃんの声が聞こえた気がした。
そして右手が少しだけ温かくなった。

時計を見るとまだ5時だった。

早起きのばあちゃんは、きっと僕に一番におめでとうって言いたかったんだと思う。

でも父ちゃんも母ちゃんも

「ばあちゃんが」おめでとう” って言っただよー！」

なんて言っても信じてくれないと思うから、言わないでおこう。

ばあちゃんと僕だけの秘密にしよう。

ばあちゃん、本当にありがとう。
最高の誕生日プレゼントだよ！

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5435d/>

ハッピー・スノー

2010年10月9日22時52分発行